

令和 5・6 年度

鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



奄美市立朝日中学校

目次

1 はじめに

- (1) 奄美市の概要・・・・・・・・・・・・・P 1
- (2) 学校・生徒の実態・・・・・・・・・・・・・P 1

2 研究の概要

- (1) 研究主題・・・・・・・・・・・・・P 2
- (2) 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・P 2
- (3) 研究仮説・・・・・・・・・・・・・P 2
- (4) 租税教育の目標・・・・・・・・・・・・・P 2
- (5) 研究の組織・・・・・・・・・・・・・P 3
- (6) 租税教育全体計画・・・・・・・・・・・・・P 3
- (7) 研究の経過・・・・・・・・・・・・・P 4
- (8) 各教科との関連性・・・・・・・・・・・・・P 5

3 研究の実際

- (1) 令和 5 年度租税教室・・・・・・・・・・・・・P 6
- (2) 令和 6 年度租税教室・・・・・・・・・・・・・P 7
- (3) 税に関する掲示物コーナーの設置・・・・・・・・・・・・・P11
- (4) 租税に関する書籍・・・・・・・・・・・・・P12
- (5) 税に関する作品・・・・・・・・・・・・・P13

4 研究の成果と今後の課題

- (1) アンケート結果・・・・・・・・・・・・・P16
- (2) アンケート考察・・・・・・・・・・・・・P16
- (3) 研究の成果・・・・・・・・・・・・・P17
- (4) 研究の課題・・・・・・・・・・・・・P17

5 おわりに・・・・・・・・・・・・・P17

1 はじめに

(1) 奄美市の概況

奄美市は、平成 18 年の 3 月 20 日の市町村合併により誕生しました。

面積は島全体の約 4 割を占め、中核都市としての機能を持つ名瀬地区（旧名瀬市）、緑豊かな森林と清流を持つ住用地区（旧住用村）、広い農地と美しい海岸線を持つ笠利地区（旧笠利町）で構成されています。

奄美大島は、豊かな亜熱帯照葉樹林、広大なマングローブの森などの多様な自然環境を有し、国の特別天然記念物アマミノクロウサギをはじめとした世界的に独特で重要な絶滅危惧種や固有種の生息・生育地となっています。この自然環境や生物多様性が世界的に認められたことにより、令和 3 年 7 月 26 日に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」として世界自然遺産への登録が決定しました。

金作原この世界の宝を未来へ継承するために、自然環境の保全と持続可能な利用の推進に取り組んでいます。

また、古くから伝わる島唄や八月踊りといった島ならではの伝統文化や、各地域で保存されている史跡・建造物など、有形無形の文化財が数多く遺されており、このような歴史とロマン漂う空間も、本市の見どころのひとつです。（奄美市ホームページより引用）

(2) 朝日中学校区の概要

本地域は、奄美市の市街地に隣接し、浦上、有屋、大熊、仲勝、鳩浜、朝日、和光の 7 つの地区からなる。かつては水田の広がる農村地区であったが、都市計画事業によって市街化計画が推進され、奄美空港に通じる国道 58 号線や市街地に通じるバイパス道路が整備されている。交通がきわめて便利であることから、近年、住宅増加に伴い、公立機関や郵便局、銀行、病院、スーパーなど大型店舗も進出してきている。

また、自然環境に恵まれ、周囲の山々からは、絶えず野鳥の姿やさえずりの声を聞くことができる。大熊の港を擁する海岸線においては海の色や地形は景勝を呈している。文化的環境としては、平家の有盛神社やノロの住居跡、奄美の自然を描いた田中一村画伯の終焉の地もある。地域住民は、本校を「地域の学校」と言い、きわめて教育への関心が高く、学校に対しては全面的に協力をする姿勢がある。

(3) 朝日中学校の概要

本校は 1 学年が 3 クラスと、奄美大島においては大きな規模の学校となっている。生徒は、授業や生徒会活動、部活動など何事にも精力的に取り組むことができ、純朴で素直な生徒が多い。一方で、島外で過ごした経験が少なく、社会的な経験や知識が浅い生徒も少なくない。また、本校では学校教育目標「自分の生き方を求め、今を大切にする朝日中生を育成する」のもと、全校職員が協力して生徒への指導を行っている。



【生徒会総会】



【学習発表会】

2 研究の概要

(1) 研究主題

租税教育を通して、税についての理解を深め、納税に対する納得感の醸成と主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成する。

(2) 研究主題設定の理由

鹿児島県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。」ことにねらいを置いている。

私たちの生活には、税金が活用されて整備された施設やサービスが多く存在する。しかし、税によって日々の生活が支えられているという実感をもっている生徒は多くない。

そこで、租税教育を通して、税に対する興味関心をもち、税についての正しい知識を身につけることで、社会を支え貢献しようとする態度を育成することができると考え、本研究主題を設定した。

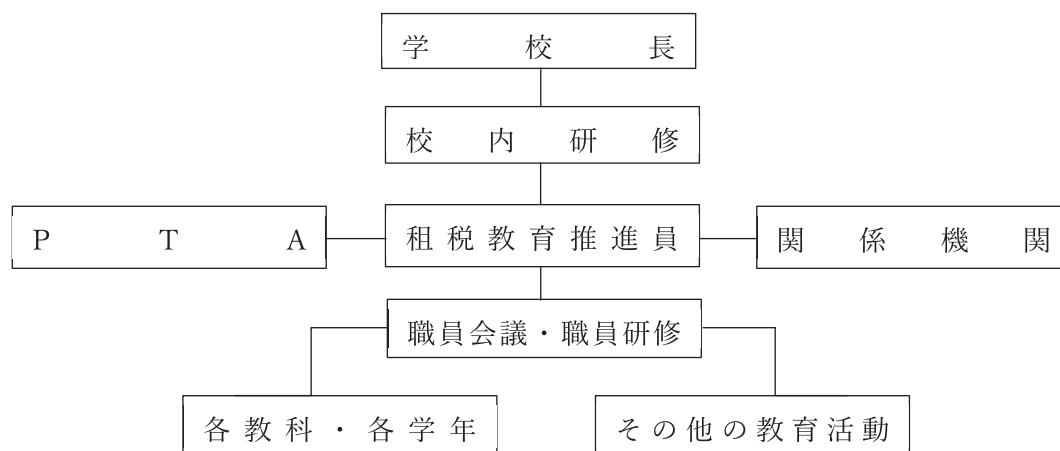
(3) 研究の仮説

租税教育や学校の各教育活動を通して、税に関する興味・関心を高め、社会生活を支えている税について知ることで、社会における権利と義務の主体者として、社会に貢献しようとする態度を育成することができるのではないかと。

(4) 研究目標

- ① 租税教室や学校における各教育活動を通して、税に関する興味・関心を高める。
- ② 税に関する正しい知識を身につけ、社会における税の役割を理解させる。
- ③ 税と社会とのかかわりを知り、主体的に社会に貢献しようとする態度を育成する。

(5) 研究組織



(6) 租税教育全体計画

奄美市立朝日中学校の学校教育目標

自分の生き方を求め、今を大切にする朝日中生を育成する



鹿児島県租税教育の目標

租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身に付け、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。



鹿児島県租税教育推進協議会の目標

身近な生活と租税の関わりを生徒が自主的に調査し、研究発表、資料収集を協力して学習することにより、郷土についての理解を深め、主体的に行動できる生徒の育成を目指す。



租税教育 研究主題

租税教育を通して、税についての理解を深め、納税に対する納得感の醸成と主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成する。

(7) 研究の経過

① 令和5年度（1年目）

月	内 容
4 月	・租税教育推進校の委嘱 ・租税教育係の設置や研究主題の設定 ・租税教育年間計画の検討
5 月	・租税教室実施（1年生の学活でキャリア教育と兼ねる） ・税に関する作文や標語作成
8 月	・今後の租税教育資料計画検討 ・税に関する作文の指導
11 月	・鹿児島県租税教育研究会への出席
12 月	・税に関する掲示物コーナーの設置
3 月	・1年目の研究まとめ ・次年度の研究計画案の修正

② 令和6年度（2年目）

月	内 容
4 月	・研究計画の確認
5 月	・税に関する書籍コーナーの設置
6 月	・租税教室実施
7 月	・税に関する作文の作成
8 月	・11月の租税教育研究会に向けて研究誌作成 ・11月の租税教育研究会に向けてパワーポイント作成 ・税に関する作文の添削指導
9 月	・税に関する標語の作成
10 月	・研究冊子の完成
11 月	・鹿児島県租税教育研究会への出席
3 月	・2年目の研究のまとめ

(8) 各教科との関連性

教 科 等	指 導 内 容
国 語	・ NIE 活動を通し、資料活用能力を高める。 ・ 目的や場所に応じた表現ができる能力を育てる。 ・ 言語活動の充実を通して、思考力や判断力を育てる。
社 会	・ 税を通し、国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。 ・ 各地域の特色に応じた税の役割を取り上げる。(地理的分野) ・ 租税や歴史的な変遷とその意義を取り上げる。(歴史的分野) ・ 租税の意義と役割及び納税の義務を取り上げる。(公民的分野)
数 学	・ 表やグラフ、数値を基に資料を分析して、お互いの関連や資料全体としての傾向や特徴を理解できるようにする。 ・ 消費税やその他の税率の計算等を通して、税の割合等を意識させる。
理 科	・ 自然事物の理解を深め、自然と調和した行動がとれるようにする。 ・ 実験器具を税金で購入することを理解し、納税の大切さを考えさせる。
英 語	・ 他の国々の習慣、文化、風俗、ものの考え方・見方の違い等に対する理解を深め、国際社会に生きる自覚を高め、国際協調の精神を養う。 ・ 環境問題等を地球規模で考え、自然や物を大切にする生徒を育成。
音 楽	・ 表現及び鑑賞の幅広い活動を通し、豊かな心を養い、感動できる幅広い人間を育てる。 ・ 楽器が税金で購入されることを理解し、納税の大切さを考えさせる。
技術・家庭	・ 生活に必要な基礎的知識を習得、実践的態度を育てる。 ・ 日常生活の支出や収入から、税金に関する知識を高揚させる。
美 術	・ 鑑賞の活動を通し、豊かな心を養い、感動できる幅広い人間を育てる。 ・ 用具、器具が税金で購入されることを理解し、納税の大切さを考える。
保 健 体 育	・ 体育大会等を通して、主体的に企画・運営ができる生徒を育成する。 ・ 体育施設が税金で負担されていることを理解し税の大切さを考える。
道 徳	・ 基本的生活習慣の育成のため社会的役割と責任について考えさせる。 ・ 法やきまりの遵守、権利と義務について理解させる。
特 別 活 動	・ 学校行事を通して、集団の一員としての自覚を深め、よりよい集団生活を築いて、自主的・実践的な態度を養う。
総合的な学習	・ 租税に関する様々な実践活動を通じ主体的に取り組む態度を養う。 ・ 自ら考え、学び合い、主体性のある生徒の育成を行う。
広 報	・ 租税について啓発を図り、家庭地域社会との連携を進める。 ・ PTA 活動で、保護者が税に関する知識を深め納税に納得感を育てる。

3 研究の実際

(1) 令和5年度租税教室

研究1年目の最初の取組として、大島税務署から講師を招き、1年生を対象とした租税教室を実施した。研究1年目ということや1年生を対象としていることもあり、税金がどのようなことに使われているかといった内容について学習した。パワーポイントや映像資料を活用しながら学習することで、生徒も関心をもって学習することができた。

場 所 朝日中学校 2階ワークスペース

対 象 朝日中学校1年生

講 師 大島税務署

内 容 「税の使われ方」など



(2) 令和6年度租税教室

税理士1名を招き、3年生を対象として実施した。生徒が税金について興味をもつことができるように、クイズを通して学んでいく形式をとっていただいた。身の回りの税にはどのようなものがあるか、こういったサービスにどれくらいの税金が使われているのかといったことについて、生徒も興味をもって学ぶことができた。

日 時 令和6年 6月7日(金) A校時 4限目 11:45～12:35 (50)

場 所 朝日中学校 3階ワークスペース

対 象 朝日中学校3年生

講 師 税理士

内 容 「税の使われ方」など

(生徒の感想)

- ・ 税金については、普段からニュースなどで見ていたけれど、自分にはあまり関係のないことだと思っていました。今日の租税教室を受けて、自分の周りにも税金が使われているということが分かった。
- ・ 税の種類が思っていたよりもずっと多くて、とても驚きました。
- ・ 今まで税金を納めるのは、自分のお金が減っていやだなと思っていました。けれども今日の話を聞いて、少し納得しました。
- ・ 今までは、増税などのニュースをよく聞くので、税にあまりいいイメージをもっていなかった。しかし、今日の話を聞いてからは税金についてのイメージが少し変わった。
- ・ 税金について知らないことが意外と多く、様々なことを初めて知ることができたので楽しかった。
- ・ 税金についていろいろなことを知ることができて良かった。他のことについても知ってみたいと思った。
- ・ ニュースなどで税金について話しているところをよく見る。ネガティブな考えをもっていたけれど、いろいろなところで使われていると知り、驚いた。



(租税教室ワークシート)

租税教室(そぜいきょうしつ)

令和6年6月6日 朝日中学校

1 自己紹介

2 今日考えてほしいこと

- ① 税金ってなんだろう。
- ② 税金は何に利用されているのかな？
- ③ なぜ必要なのかな？なかったらどうなるのかな？
- ④ 日本の財政と課題

3 日本には何種類の税金があるでしょうか。(消費税、所得税、固定資産税、
国民健康保険税、贈与税、法人税、自動車税、不動産取得税など)

- ① 15種類
- ② 30種類
- ③ 50種類

4 中学生は消費税以外、税金を払わなくてよい？(払う必要あり・なし)

5 次のうち税金を支払う必要があるのは何番ですか？(所得税、贈与税)

- ① 国内の宝くじで1,000万円あたった。
- ② おじいちゃんから1,000万円もらった。
- ③ 海岸で拾った1,000万円を警察に届けたが、持ち主が見つからなかったもので、自分のものになった。
- ④ テレビ番組でクイズに応募して懸賞金が1,000万円に当選した。

6 学校の中で税金が何に使われているか考えてみましょう。

(大きいもの、小さいもの、目に見えないもの)

- 7 公立中学校生徒1人当たりの1年間にかかる教育費はいくらでしょうか？
- ① 約62万円
 - ② 約92万円
 - ③ 約112万円
- 8 だれが朝日中学校の生徒のために教育費を負担しているのでしょうか？
- 9 国（日本）鹿児島県（都道府県）奄美市（市町村）が払う教育費はどこから集めていますか？
- 10 税金は学校の外ではどのように使われているのでしょうか？（登校時、台風の時・・・夜道を歩く時・・・困った時・・・体調が悪い時・・・）
- 11 もし税金がなかったらどうなるかな？
（国民が税金を払わなかったらどうなるかな？）
- 12 税金は何のためにあるのか？（安心、安全、幸せ、健康・・・）
- ・豊かな生活のため
 - ・健康的な生活のため、
 - ・安心して暮らせるように
 - ・文化的に暮らせるように
- 13 現状と課題
- 14 最後に
- 税金が皆さんの生活にどれだけ大切なものか理解できましたか。
皆さんが、安心安全で、豊かに健康で幸せな生活を送るため、税金が使われていることが理解できたかと思います。
しかし、そのために、国や県、市や町の借金が増えてきています。
少子高齢化で人口が減少しています。（宿題）

各質問について、答えを予想したり、生徒同士で考えたりしながら学ぶことができた。特に、税の種類の高さや中学生一人当たりになんてほどの金額の税金が使われているかといった話については、生徒も初めて知ることや予想外の答えであったため、生徒も楽しみながら学ぶ様子が見られた。

(3) 税に関する掲示物コーナーの設置

生徒が日頃から目にすることができるよう、生徒玄関横に設置した。税に関する資料に加えて、本校がNIE推進校であることもあり、税に関する新聞記事もあわせて掲示した。掲示に使用する資料として、事前に大島税務署へ資料を紹介していただけないか問い合わせたところ、国税庁が作成している「わたしたちの生活と税」を紹介していただいた。カラーで大変見やすいため、印刷もカラー印刷で行い、長期間掲示できるようにラミネートし、新聞記事の注目してほしい箇所に線を引くことで、生徒にその内容について考えてもらえるように工夫した。



(4) 租税に関する書籍

税に関する知識や関心を高めるために、図書室へ税に関する書籍コーナーを設置した。司書教諭の協力もいただき、書籍と合わせて税に関する掲示物も作成・設置していただいた。また、令和6年度には税に関する書籍をさらに購入していただいた。



(5) 税に関する作品

夏休み課題として、全学年を対象にして税に関する作文と書道作品を募集した。税以外のテーマや題との選択制であったが、令和6年度は租税教室を直前に実施したこともあり、前年度に比べ、多くの生徒が取り組んだ。

① 税に関する作文

租税教室を受けて

奄美市立朝日中学校3年

僕は、今年、租税教室をうけました。税など僕には関係ないと思っていましたが、今のうちに税に関する知識を身に付けておくことで将来役に立つということを知りました。

租税教室では、まず税が社会のどのような場所で使われているかをみんなで考えました。僕は、道路の整備や川の護岸工事のために使われているのではないかと考えました。考えた後に周りの人と意見交換をする時間がありました。すると、たくさんの意見が出てきました。例えば、病院の治療費や先生の給料などです。自分で考えるだけではあまり思いつきませんでしたが、他の人と意見を交換することで社会の様々なところで税金が活用されているということを実感しました。

次に、税の種類について学びました。僕たち中学生が一番身近な税といえば消費税ですが、消費税以外にもおよそ五十種類の税があると知り、とても驚きました。その五十種類の税の中には、贈与により財産を取得した個人に課せられる贈与税や土地、家屋などの固定資産に対して課される固定資産税があるそうです。また、税には国税と地方税の二つの種類があり、前文で示した贈与税は国税、固定資産税は地方税だそうです。贈与税に関しては知らない人が多く、納税をせずに脱税扱いになってしまうことがあるので注意が必要だそうです。

租税教室の最後には、税に関する課題について学びました。現在の日本の税に関する課題は、国が国債を発行して発生している借金が年々膨れ上がっていることだそうです。もし、このまま国の借金が膨れ上がっていくと、将来の世代に大きな負担を残すおそれがあると学びました。

今回の租税教室を通して一番心に残ったことは、税が五十種類もあるということです。僕が今まで知っていたのは消費税蔵だったのでとても驚きました。僕たち中学生にとって税は身近なものに感じる事があまりできないですが、今のうちに税に関する知識を身に付けておくことで、将来起こりうる税でのトラブルを回避することができるそうです。

今回の租税教室を通して、僕たちが税に支えられて生きているということを実感しました。だから、税金は確実に納めてよりよい社会づくりに貢献していきたいです。

みんなが安心して暮らせるように

奄美市立朝日中学校 3 年

みなさんは、「税金」と聞いて何を考えるだろうか。私は「税金」と聞いて、よりよい社会を作るために払っているお金のこととしかわからなかった。私たちは誰に、何のために税金を払い、どのようにして使われているかなど、もっといろいろなことを知りたいと思った。

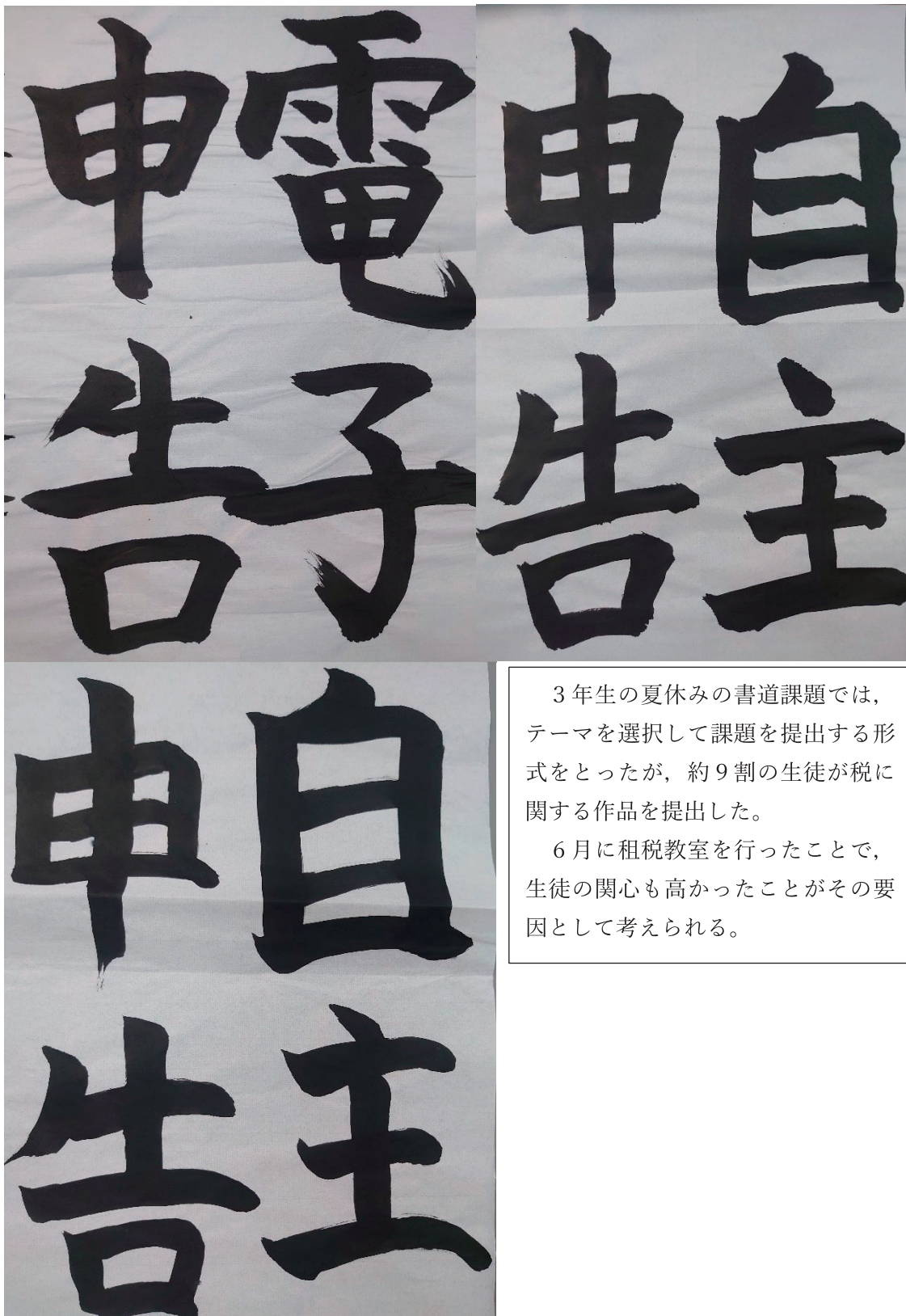
まず、私たち中学生に身近な税金について調べてみることにした。中学校では年間 1 人当たり約 979,000 円、学生である私たちのために税金が使われているようだ。それ以外にも例えば、道路の建設や修理、社会保険、ごみの処理費などがある。これだけでもたくさんの税金が使われていることが分かった。だから、他にもいろいろあるが、わかりやすく例えると中学校では、税金を利用させてもらっていることになる。しかし、私たちは税金を利用させてもらっている立場だけではない。私たち中学生でも、税金を支払うこともある。

お店で物を買うとき、消費税という税がかかる。2019 年、消費税は 10 パーセントに引き上げられた。そんな消費税は、いつから始まったのだろうか。私は疑問に思った。消費税は平成元年の 4 月からスタートし、当時は 3 パーセントだったようだ。ということは、それまでは、消費税はなかったのだ。とても驚いた。その後、平成 9 年の 4 月に 5 パーセント、平成 26 年の 4 月に 8 パーセント、令和元年には 10 パーセントへと引き上げられていった。このように消費税が上がる理由は、主に年金や医療など社会保障の財源確保のためだそうだ。消費税が上がった分、私たちはお金を多く払わなければならない。けれども、学校のことだけでもたくさんのお金が必要だから、やはり税金は必要だと思う。しかし、税金を集めるためには、消費税だけでは足りないのではないかと考えた。

インターネットを使って調べてみると、課税主体が国である「国税」と地方公共団体である「地方税」があることが分かった。その税金がなければ私たちは、どうになってしまうのだろうか。もしも、税金がなかったら、道路や橋が壊れても修理するお金がなくなり、そのまま放置される。他にも犯罪などを取り締まる警察がいなくなり、安全な生活ができなくなる。子供たちが安心して学べる環境を整えるための費用をまかなえなくなる。福祉施設や保育所、医療機関の整備が十分に行われず、困ったときに頼れなくなる。このように、税金がないと、みんなが困ることだらけで、さらに国民一人一人の負担が大きくなりとても大変だ。

税金は、国民の健康で豊かな生活を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となり、私たちが社会で生活するための大切なお金だ。みんながお互いに支えあって、ともにより良い社会を実現するために税金がある。私は、よりよい社会を作るために自分で考えて行動し、社会に貢献したいと思う。

② 書道



3年生の夏休みの書道課題では、テーマを選択して課題を提出する形式をとったが、約9割の生徒が税に関する作品を提出した。

6月に租税教室を行ったことで、生徒の関心も高かったことがその要因として考えられる。

4 研究の成果と今後の課題

(1) アンケート結果

- ① 租税教室や税の作文・習字作品への取組を通して、以前より税に対する興味や関心が高くなったと思うか。

ア はい……93.6% イ いいえ……6.4%

- ② 税金は必要なものだと思いますか。

ア はい……93.6% イ いいえ……6.4%

- ③ 租税教室や税の作文・習字作品への取り組みを通して、どのようなことを考えましたか。

- ・ 今までは税について考えたことはなかったけれど、ニュースなどを見る際に少し気にするようになった。
- ・ 租税教室を受けたとき、税が 50 種類もあると知って驚いた。いろいろな税について知ることができた。
- ・ 自分たちが日ごろ使っている机なども税金が使われていることを知り、税金が大切なものであることが分かった。
- ・ 身の回りの様々なところに税金が使われているということを知った。普段使っている教科書や机などにも税金が使われていると知って、大切に使おうと思った。
- ・ 消費税のこともあまりよく知らなかったけれど、買い物をするときなどにすこし気にするようになった。
- ・ 今までは税金を支払うことにあまりいいイメージはなかったが、税金の使われ方などを知って、しっかり税金を納めないといけないと思うようになった。

(2) アンケートの考察

アンケートの結果から、税に関する興味や関心が高まった生徒が多くいることが分かる。特に、税が身近なことであることや社会生活の様々な場面で活用されていることを知ったことが印象に残っているようである。これらのことは、租税教室でも中心となった話題である。令和 6 年度に実施した租税教室は、クイズ形式であったこともあり、普段は税に関心のない生徒も楽しみながら興味をもって学習することができたため、多くの生徒の印象に残っていると考えられる。

また、生徒によっては、買い物をするときの消費税を気にしたり、税金は必要なものであると考えたりするなど、自分の生活に生かそうとしている生徒もいる。研究を始めた当初は、消費税が現在どれくらいの税率がかけられているかもわからないという生徒もいたが、租税教室等で税について学んだり、税に関する作品へ取り組むにあたって自分自身で税について調べたりしたことで、税に関する知識も増え、納税に対する意識が高まったと考えられる。

(3) 研究の成果

アンケートの結果からも分かるように、税に対する興味・関心を高められたことは、研究の成果と感じている。以前の生徒たちは、ニュース等で税金という言葉聞いたことはあるが、どういった税があるかなどといった詳しい内容までは知識がなかった。そのため、なぜ税金を納める必要があるのか、税金は社会に必要なのかといった税の必要性を感じている生徒は多くなかった。しかし、租税教室や税に関する作品への取組などによって、生徒が税について詳しい内容を知ることができ、税金の必要性を感じるようになってきている。

取り組みとしては、授業以外の形で様々な取組ができたことが成果と感じている。租税教室や税に関する作品だけでなく、図書室への税に関するコーナーの設置や NIE と関連付けて新聞記事を活用したことなどにも取り組むことができた。

(4) 研究の課題

課題としては、研修係が中心として租税教育を進めていくことができた一方で、その取組を学校全体へと広げていくことができなかったことが挙げられる。租税教室や税に関する作品への取組については、担当学年や担当教科の職員にも協力をいただくことができたが、担当の周知徹底が不十分だったこともあり、それ以外の職員が取組に参加できるような環境を作り切れなかったことが反省点である。各教科でどういった取組を行うのかといったことを入念に打ち合わせることができれば、さらに充実した取組となると考えられる。

また、税について生徒が学ぶ際に、生徒自身で考えたり調べたりする活動を積極的に取り入れられなかったことも課題であると感じている。税について学ぶ際に、自分が住んでいる町の税金について調べたり、税金のより良い使い方について考えたりするといった発展的な学習ができると、生徒もさらに高い興味・関心をもって取り組むことができたのではないかと考える。

5 おわりに

2年間にわたって、租税教育研究委嘱校として、研究実践に取り組んだ。「租税教育を通して、税についての理解を深め、納税に対する納得感の醸成と主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成する」という研究主題のもと、十分な実践とは言えないが、様々な取組を行ってきた。生徒が税に関心を持ち、税に関する理解を深めることで、主体的に社会を支え、関わろうとする態度を育成することができたのではないかと考える。今後も生徒が税に関して学ぶ機会を設定し、租税教育の推進を継続していきたい。

最後に、このような有意義な機会を与えてくださった鹿児島県租税教育推進協議会をは

じめ、租税教育の推進に当たって協力をいただいた大島税務署の方々、税理士の方々など諸関係機関の方々に大変感謝している。心からお礼を申し上げたい。